

人間行動学科 地理学コース



地理学コースとは

当コースは5名の教員（うち1名は大学院兼任）と約40名の院生・学部生から構成されています。2年生では地理学に必要なフィールドワークと資料分析のスキルを身につけます。3年生は引き続きフィールドワークのスキルを磨くとともに、学術文献を渉猟し、地理学研究の視角を養います。その上で、4年生は就活などと並行して卒業論文を執筆します。卒業後の進路は一般企業への就職、教員、大学院進学など様々ですが、例年堅調です。

菅野先生の研究

都市問題や社会的課題がどのように解決されるのか、そこに都市や地域の特性がどのように関係しているのかということが一貫した研究テーマです。特に注目しているのはNPOなどの民間非営利部門やセクターや、彼らが行政や営利企業と協働することを促すローカルなルールや慣習です。これらが、災害復興・生活困窮者支援・地方創生などの問題解決にどう影響しているのかを検討しています。

地理学コースの魅力はなんとと言っても野外、つまり様々な場所について学ぶことができる点です。知らない場所のでフィールドワークを通じて新しい発見をし、それを研究として深めていくことは地理学の醍醐味です。

フィールドにおいては、アンケートによる量的調査、インタビューにもとづく質的調査や社会ネットワーク調査、文書にもとづく歴史分析などを組み合わせ、物事を複眼的に検討するようにしています。また、サードセクター・行政の実務や、様々な政策策定過程に関与するアクションリサーチも実施しています。



准教授
菅野 拓 先生

地理学コースを 選んだ理由

面白いと思った 専門科目

人間行動学概論という授業を受講する中で、「地域」という単位に着目して物事を考えるという地理学の考え方が面白いと感じたからです。

また、地理学なり、元々が興味を持っていた地域活性化というテーマががよく扱われていて、しっかり勉強できそうだと思ったのも一因です。

地理学コースの 魅力

地理学コースでは、様々な地域の様々な事例が扱われるため、よく知らなかった地域のことはもちろん、知っている地域の新たな一面も知れます。また、地理学的視点を獲得することで、普段何気なく過ごしている場所や地元の見方が変わりました。

卒論テーマ例

- ・「時間」のシェアの地域的展開—フードデリバリーサービスの現状と課題—
- ・マンション立地に伴う中心市街地の活性化とまちなか居住—兵庫県姫路市を事例として—
- ・農産物直売所におけるIoT活用実態と展望—滋賀県守山市「ファーマーズ・マーケットおうみんち」を事例として—

3回生
かわぐち えみり
川口 瑛美莉 さん



「科目名」
地理学野外調査実習Ⅱ
この授業は、毎年6月頃に行われる巡検（フィールドワーク）を学生が計画するというものです。その地域の魅力を引き出せるスポットはどこかを調べつつ、時間や距離の問題を踏まえてルートを考えるのは、難しくもとても楽しい作業です。

『とびら』とは？

「とびら」をくぐり、外を探検すること、これが地理学の重要なアイデンティティです。書を読み、先人の知恵を学ぶことも重要ですが、その知恵に頼りつつも、知恵からはみ出す新たな事実を外でフィールドで見出すことが、地理学らしい知の探求方法です。ですので当コースにとつての「とびら」は、くぐり抜けて外にでるためのものなのです。地理学は世界の探検から生まれた学問なので当然といえば当然です。大学という知の「とびら」を開けて中に入ったのに、そこにとどまっているとウズウズしてしまい、いつの間にか「とびら」から出て知らない場所に飛び込んでしまう。こんな人は地理学に向いているかもしれません。実際、研究室にほとんどおらず、どこにいるやらわからない教員もいます（もちろん、教育や研究はしっかりやっていますよ、誤解なきよう）。（文・菅野先生）

